

とっさの愛

1985年8月12日524名を乗せた日航機が御巢鷹山で墜落しました。  
これは、当時の新聞記事の見出しです。

- ・おかあさん! きゃー!
- ・夏空に消えた思い出 この子らはもう帰らない
- ・絶叫 悲鳴が交錯
- ・怖い、怖い、怖い、死にたくない
- ・迫る山 緊急 緊迫の操縦室
- ・幸せでした
- ・29歳の父 死の淵で息子に託す期待  
哲也立派になれ 子供をよろしく 6時30分
- ・子供をよろしく しっかり生きて
- ・死覚悟 一瞬の親心  
抱き合い 遺体発見 遺体は他人同士

墜落するまでの機内の、激しい揺れ、爆発、「おかあさん!」「きゃー!」絶叫悲鳴が交錯する中で、多くの乗客は自分の死を覚悟し、家族に宛てたメッセージを書き残しました。その遺書の中には、「無念だ」という言葉のほかに、不思議なほどに「幸せだった、感謝している」「ありがとう」「みんな仲良く」「みんなを頼む」と記されていました。

- ・死覚悟 一瞬の親心  
抱き合い 遺体発見 遺体は他人同士

という見出しに引き付けられました。

事故当時、中年の男性の胸元に小さな子供が抱かれて、黒焦げになっているのが見つかりました。抱きしめているから、本当に一瞬の親心。自分が黒焦げになっても、とっさに「わが子の命だけでも」と懐に抱き込み、熱く苦しくてもその手を緩めずにした、ということでみんなの涙を誘いました。ところが・・・3日後に、実は抱き合っていたのは親子ではないことがわかったのです。

この中年の男性のご遺体の身元がわかって調べていくと「うちには子供はいません」ということだったのです。小さい子供の本当の親は、別の場所から発見されました。自分の死を覚悟したその瞬間でも、飛んできた子供を必至で抱き寄せ、自分の懐の中に深く守ろうとした。

「一瞬の親心」

それは、わが命の危機の瞬間に、たとえそれが他人の子供であっても、まぎれもない「本能・父性」が目覚めた、DNAに刻まれた命をつなぐ愛が、とっさに目覚めたということなのだと感じました。是非、あなたもこのことから、感じてみてください。わたしたちがみんな運んでいる命をつなぐDNAには、紛れもなく「愛」が刻まれているのです。

私が26歳の時の「事故」ですが、今でもその衝撃を鮮明に憶えています。自分がこの極限状態になった時、どんな行動をとり限られた時間にどんな一文を書くのだろう!

そんな状況の時に、「感謝の言葉」を書けるようになる為には、やはり普段、一日一日を感謝の気持ちを持って過ごせるかどうかになると思います。ある方が言われたとっても素敵な言葉に…

「ありがとう」といっばい言う人は「幸せ」になり  
「ありがとう」といっばい言われる人は「成功者」になる

というのがありますが、たぶん真実だと思います。  
頑張って「ありがとう」という言葉を、意識的に  
増やして夏を過ごしてみましよう!!



## <お・ま・け

「暑い毎日の特效薬!!」  
チベットの女性の講演を聞いたことがあります。

「日本人とても不思議。夏は『暑い暑い』、冬は『寒い寒い』、仕事中は『しんどいしんどい』、家に帰ると『疲れた疲れた』言う。チベット人そんなこと言わない。夏は暑い、冬は寒い、当たり前だから。日本人どうして当たり前のこと文句言うか。不思議」

とても説得力がありました。

たしかに日本人は、夏は「暑い暑い」、冬は「寒い寒い」、仕事は「忙しい忙しい」いろんなことに不平や不満を言いますね。口には出さなくても心の中で不平や不満を言っています。

それは顔にも出るし、態度にも出る、言葉にも出てしまいます。それが相手にも伝わり、その場の空気をおかしくしています。

そこで私は、特效薬を発見しました!! その特效薬は「当たり前」カプセルです!

夏に「暑い」と思ったら「当たり前」カプセルを1錠!!  
是非、お試し下さい!!!